

シルバーだより

もとみや



6号

■発行日/平成24年1月1日 ■発行所/社団法人本宮市シルバー人材センター
■住 所/本宮市本宮字太郎丸112-3 ■電 話/0243-34-5226

荒井神社 太々神楽
演目：國堅楽

年頭あいさつ

理事長 根本 守



新年あけましておめでとうございます。昨年の三月十一日に発生した、東日本大震災により会員の被災された皆様、又、東京電力福島第一原子力発電所の放射性物質漏出事故により避難を余儀なくされ大変な思いをされておられる皆様には心からお見舞い申し上げます。多大なる被害と心に大きな傷を残しましたこの未曾有の大災害に皆様の手を取り合い励ましあって立ち向かって行きたいと存じます。

このような事情から、昨年は、理事会・総会の延期開催、就業の件数の減等がありました。しかしながら、協力をより強め充実した一年であったと感じます。

本年は、新たに公益社団法人として、より飛躍した年となります。よう願うとともに、会員の皆様も心身ともに健康で生きがいのある自立した人生を送ることが出来るよう事業を進めてまいります。

就業にあたっては、シルバー人材センターの目的に誇りを持ち、社会奉仕と共働・共助の基本理念の基で誠実に責任をもってお客様のニーズに応え安全就業を最優先に就業することをお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。

新年のあいさつ

本宮市長 高松 義行



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。平成十九年に設立されまし

新年のあいさつ

本宮市議会議長 作田 博



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、健やかな新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。我が国は少子高齢化の進行による労働力人口の減少や、

た本宮市シルバー人材センターも五年目を迎え、これまで高齢者の就業機会の提供を通じて、会員の生きがいの充実や地域の活性化を推進してこられました。理事長様をはじめ関係各位に對しまして、改めて感謝を申し上げます。さて、昨年の東日本大震災は原子力発電所の事故を誘発し、依然として厳しい状況が続いておりますが、市といたしましては一日も早く「元気な本宮」を取り戻すため、県のほぼ中央に位置する地の利を活かし「福島のへそ」もと

経済不況により労働状況の大きな転換期を迎えております。高齢者の方々が年齢に関わりなく、いつまでも健康で働き続けられる社会を実現していくことが極めて重要であります。

そのような中、貴センターが、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと就業を推進して高齢者の社会参加を大きく寄与されていることに対し、心から敬意を表します。さて、この度の東日本大震災は、本市へも甚大な被害をもたらしました。本市が災害

みや」を広く発信し、復興に取り組んでまいりたいと考えております。役員並びに会員の皆様におかれましては、豊かな経験と知識を活かし、今後とも高齢者の生きがいづくりと地域の活性化のために、より一層充実した事業運営が展開されますことをご期待申し上げます。結びに、社団法人本宮市シルバー人材センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

から一日も早く復旧し、そして更なる発展を遂げるためには、皆様も長年に亘って培った知識、経験、技能を活かして活躍されること、が不可欠であります。市議会としましては、高齢者の就業機会の増大や生きがい対策等を通して、活力ある高齢社会の実現を目指し、鋭意取り組んでまいります。

結びに、貴センターの益々の発展と会員皆様方のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。市議会を代表し、新年のごあいさつといたします。

安全就業管理教育事業



樹木管理講習会

平成二十三年度安全就業管理教育事業として、機械器具取り扱い講習会を開催いたしました。就業時に使用する刈払機、チェーンソー、ヘッジトリマーの正しい取り扱いとメンテナンスの方法について学習しました。



機械器具取り扱い講習会

平成二十三年度安全就業管理教育事業として、会員の技術養成のため樹木管理講習会を開催いたしました。剪定就業の会員を育成するため六回の講習を実施し、樹木の特性と剪定の手順と方法について学習しました。講師には、みどり花塾長 安部美敏先生に分かりやすく講演をいただきました。

「とにかく自分の身を守る」(安全就業の心構え)

センターは、安全就業対策を重要な課題として組織的に取り組んでいます。人命尊重・事故防止・傷害事故絶滅を目標に安全就業委員会により、講習会の開催、安全就業パトロール等実施しています。

全国の事故発生は、過去5年間ともに横ばい状態で発生しております。

そのうち、死亡事故も減少していない状況にあります。

県内も就業延人員と比例して増え、就業中の事故は、過去最悪の状態となっています。

死亡事故の主なもの、墜落・転落によるもので、安全帽、安全帯の未着が70%を占めて、着

装の徹底が重要課題です。

せっかく会員になって就業して傷害事故を受けては、何のための就業かとなります。事故による傷害で悲しむのは、家族です。

「とにかく自分の身を守る」という意識を常に持ち、安全就業を自覚して就業にあたるのが大切です。



交通安全講習会

平成二十三年度安全就業管理教育事業として、交通安全講習会を開催いたしました。

就業途上での交通事故は、近年横ばい状態で発生し、減少していません。

会員の皆さんの、交通安全のために講習会を白沢老人福祉センターで開催し、四十四名が参加いたしました。

講師には、郡山北警察署本宮分庁舎地域交通課の根本巡査長さんに分かりやすく講演をいただきました。



会員入会説明会を

開催

広報もとみやに周知の掲載・市の回覧等をいただき、六十歳以上の皆さんを対象にシルバー会員の入会説明会を七月一日、九月一日、十一月二日に開催いたしました。

参加者には、総務部会担当の理事から会の目的、事業、理念等の説明をし、参加者一人ひとりに個人面談をいたしました。会員の増強のため、次回は、三月一日(木)に開催を予定しております。

新年度も五月、七月、九月、十一月に開催いたします。

新会員加入者名

二十三年七月から十一月

日下部ミヤ子 本宮第三班
鈴木 毅一 本宮第四班
渡辺 康一 白沢第三班
鈴木 和夫 本宮第二班
佐藤 照夫 白沢第一班
佐藤英喜夫 本宮第一班
本泉 芳子 本宮第五班
根本 義則 本宮第二班
原瀬 三代子 本宮第一班
佐藤 和利 本宮第五班
三瓶とし子 白沢第二班
國分 政司 白沢第二班

適正就業委員会



十月二十日に適正就業の県内先進地である二本松市SCCを研修のため訪問いたしました。

会員が同一業務への就業が五年を超えた長期就業の場合の是正とワークシェアリング(仕事の分け合い)をスムーズに実施しており、経過と実状を研修させていただき、準備等を含め詳細に説明をいただき、事業実施に向け大変勉強になりました。

役員研修

九月三十日に理事会の研修として、先進地の群馬県みどり市SCCを訪問いたしました。

会員の入会は、三三八八名、粗入会率は、二・二六%、契約金収入額は、一億四千六百四十三万円、独自事業は、食品加工販売及び盆栽教室・料理教室の活動を行なっております。

また、安全就業として刈払機の安全就業研修の受講証明を会員に義務付け、安全就業の自立を重点に事業推進していることは、当センターの今後の課題に大変参考になりました。



みんなの広場

温たかい心にふれて

志賀 隆次



震災前は、浪江町大堀で陶器製造をなっていました。地震で、店が大きくゆれ棚から陶器がすべて落ち破片が散乱の状態となりました。

店の片付けをしないうちに、原発事故により三月十二日に本宮市の叔父宅に家族六人で厄介になりました。

四月下旬に、兼合平の雇用促進住宅に間借りし、七月中旬には、三回目の移転で現在の住宅に移住しました。

何もしないと体が鈍るため市役所に伺い、本宮市シルバー人材センターを紹介されました。早速シルバー人材センターに伺いましたが市内に在住でないため、検討させて欲しいとの事でした。

二週間後に、シルバーから理事会で避難住民の受け入れを議題とするため申し込みをするように連絡が有りましたので、自動車運転、草刈り、屋外軽作業ができるとう入会申込みをしました。

七月四日に、初めて草刈りの就業をしました。当日は、暑くてきつい作業でしたが休みながら作業するように言われ就業に対しての心づかいに感激しました。

このようにシルバーの就業では、班長さん始め会員の皆さんから親切に指導や助言をいただき仲間としての扱いに感謝しております。

また、市民の方からお米をいただいたり、市役所からの手厚い支援をいただいたり本当に感謝しております。

陶器製造の仕事も、二本松市に仮設工房と店舗が出来、新たな作業ができるようになりました。

いつ浪江に戻るかは分かりませんが、本宮に居る間は、シルバーにまかせていただき定まらぬ思いにならないよう頑張りたいと思っています。ありがとうございます。よろしくお願いたします。

働く喜び

遠藤 正志



人間は、働くことにより生活の糧を得ると同時に仕事を通じて技術の向上を図り、人間の陶冶を目指し、それを人のため、地域のために尽くすことにより充実した人生を送ることが出来るものと思われ。

少子高齢化の時代にあつて第一線を退職された方々で、現職で培った素晴らしい経験と技術を眠らせている方が結構多いのではないかと思います。

シルバー人材センターは、そのような方々に仕事を通じて社会に貢献していただく絶好の場でもあります。「共働・共助」の精神で働く喜びを味わい、創意工夫により改善できる事を見つけ、仕事を終えた後の立派に仕上がった跡を振り返れば、やり遂げた充実感に満ちその気力は最高です。

また、仕事の閑散期には互助会による楽しい企画もあります。健康で体を動かし、活力ある社会地域づくりのために是非シルバー人材センターに参加をお勧めします。

この頁は、会員の皆さんが投稿により、日頃思ふこと、旅行紀行、俳句、川柳等自由にお使いください。

「みんなの広場」の原稿募集

この頁は、会員の皆さんが投稿により、日頃思ふこと、旅行紀行、俳句、川柳等自由にお使いください。

定期監査

四月二十一日、根本義一監事・村上敬子監事による監査会が開催され、平成二十三年度の監査計画を策定いたしました。

八月二十三日に、本会の監査計画第三条の規定に基づき、平成二十三年四月～七月の四ヵ月分の事業状況について、定期監査が実施されました。

監査の内容は、就業状況および事業実施状況に伴う、財産状況、会員百七十五名の会費の納付状況と未納者二十二名の納入通知の指示、国・県・市からの補助金の収入状況、事業に伴う収入、就業した会員への配分金等の支払状況、事業に伴う支出からの収支計算書、現金・預貯金出納、理事の業務執行状況、その他として、物品台帳、市からの貸借借している物品等の管理台帳、固定資産台帳、会員事故対応のための団体傷害保険と就業中に他人の物を壊した場合の賠償責任、二つの保険の契約等の管理状況等の十項目について監査を受けました。

センター事業実績 平成23年4月～7月

発注先	受託件数	就業人員		契約金額			計
		延実人員	延人員	配分金	事務費	材料費	
公共事業	80	455	2,090	10,220,640	707,646	58,720	10,987,006
一般企業	56	273	1,632	5,850,047	561,360	697,052	7,108,459
個人家庭	188	466	626	3,413,730	283,195	160,010	3,856,935
独自事業	0	0	0	0	0	0	0
派遣事業	12	57	1,065	3,442,980	714,421	0	4,157,401
計	336	1,251	5,413	22,927,397	2,266,622	915,782	26,109,801

監事から、就業に伴う収入及び配分金、事業運営等の収支計算、運営上の財産状態は適正に処理されており、事業の内容については、定款の規定に基づき、実施されている。今後とも会発展のため適正・確かな運営に努めるよう申入れがありました。

会員互助会だより

一泊旅行

- ①開催日 十月三十一日(月)～十一月一日(火)
- ②行き先 奥入瀬・十和田湖、弘前方面
- ③参加人数 会員二十三名、事務局二名 計二十五名

《感想》
バス行程は、長く大変でしたが、奥入瀬の清流、十和田湖の遊覧船から見た素晴らしい紅葉、弘前城と国定重要文化財の最勝寺の五重塔、史跡長勝寺の歴史散歩、りんご公園の昼食とリンゴ狩り、晩秋を満喫いたしました。



感謝の集い

- ①開催日 十月二十五日(火)
- ②行き先 山形・山寺(宝珠山立石寺)方面
- ③参加人数 会員十四名、事務局二名 計十六名



《感想》
曇りでしたが、紅葉が美しく見えたえがあり、参加者全員山頂まで参拝しました。日程にゆとりがあり大変楽しい旅行でした。

安全就業 「標語募集」

1 目的

二十四年の当センターの安全意識の向上と安全就業のため、会員の皆さん「標語の募集」を行います。

2 募集対象者

会員全員

3 募集標語

自由とします

4 募集期日

二月末日

5 審査委員

理事及び各委員会の代表

6 審査月日

三月中に予定

7 賞基準

最優秀賞 一件 図書券五千円程度
優秀賞 二件 図書券二千円程度
佳作 図書券一千円程度

8 表彰

五月定期総会の席上

9 使用

「安全・適正就業強化月間」
二十四年七月一日から使用

(例) 今の標語

「安全を 意識してこそ

良い仕事」

会員の適正就業

適正就業委員会は、「高齢法」に定められている、センターが会員に提供できる就業機会の範囲は、「臨時的かつ短期的就業又はその他の軽易な業務」とされ、特定の会員が継続的に終業することが課題となっており、これらを改善するため、適正就業について再度検討しています。

- ・ 公平な就業機会の提供
- ・ 特定職種への就業制限(年齢)
- ・ 継続的な就業期間の設定
- ・ 会員の就業希望の調査
- ・ グループ、ローテーション就業による「仕事の分かち合い」の推進

これらについて、共働・共助の理念の基に、会員が誠実に就業推進出来る事、そして会員の就業は公平に分かち合うにはどうするか検討します。新たな公益社団法人に向けた会員の就業を推進するものです。会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

就業の期限等に関する基準

適正就業委員会において、「適正就業に関する基準」を検討しております。

この基準は、センター会員の就業範囲である、「臨時的かつ短期的就業又はその他の軽易な業務」と、会員就業規則に基づき、継続的契約による就業する場合の会員に適用し、会

員に公平就業機会を提供するためのものです。

多くの会員に就業機会を提供するため、継続的契約による就業については、就業期間を設定します。

就業は、会員に公平に分かち合うことを基本とし、公益社団法人に向けた会員の就業を推進するものです。

会員互助会奉仕活動

十月は、地域参加型ボランティア活動・地域環境の美化活動運動を全国シルバーが一堂に「シルバー人材センター普及啓発促進月間」として展開いたしました。

本会もこの事業に参加し、会員六五名が本宮地区は、本宮駅周辺で、白沢地区は、白沢老人福祉センターでごみ拾い、草むしりの奉仕活動を行いました。

秋晴れの天気、心地良い汗をながしました。

編集後記

七月八日、喜多方市シルバー人材センターに「会報の紙面作りについて」視察研修のために訪問いたしました。業務繁多な時節に、理事長齋藤義次さん、広報委員長齋藤誠さん、広報副委員長菊地廣明さん、藤本局長さん、担当の笠井さん、に出席していただき、紙面づくり、原稿収集、校正と発行までの苦労話等、懇切丁寧にご指導いただきました。

喜多方市SCの会報は、全面カラー八頁でもきれいな印刷です。

内容は、センターでの活動内容報告、カメラレポート。

会員のひろばは、会員の投稿が集まるとのことです。羨ましいことでした。

就業の依頼者からの声を掲載しており、とても参考になりました。

紙面作りは、編集から発行まで委員六名で行なっており、原稿依頼や原稿集めは、委員で話し合い、編集構成から発行まで三回の委員会を行なっています。

発行までの苦労話では、四十九号まで発行したが、マネリ化になっていきますが、それも良いとのことでした。発行の基本がしっかりと出ており、大変勉強になりました。

委員一同、新たな意欲で紙面作りをしてゆきたいと思えます。

委員 榎戸啓子さんが退会しましたので新たに根本恵美さんが委員に委嘱されました。

* 広報委員会 *

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 菊地 次雄 |
| 副委員長 | 川名 力 |
| 委員 | 本多 勝春 |
| 委員 | 渡辺 和彦 |
| 委員 | 根本 恵美 |